

三河湾に注ぐ愛知県幡豆町鳥羽地区の幅わずか4kmの用水路。ボランティアグループ「幡豆町EMエコクラブ」は、乳酸菌や酵母を複合培養した有用微生物群(EM菌)を流し水質の浄化活動に取り組んでいる。山崎直哉代表(42)は「三河湾は本当に魚が少なくなった。きれいになり魚が戻ってくるのを見たかった。EMで海を戻す、そういう仲間をつくりたかった」と意気込む。(桜井 孝雄)

### 「幡豆町EMエコクラブ」代表 山崎 直哉さん(42)



これを機に個人で幡豆町鳥羽近のへどろが砂のようにさ地区の用水路にEM菌培養液らさらできれいになったとを流し始めた。

「小さな用水路に深さ一尺活動の理解者も増え昨よ」と話す。浴槽も湯あかが春、五人で幡豆町EMエコクラブをつかす「家庭用排水として流個人でやって成果をみるにはラフを発売。渡辺靖町長も支せば、川や用水路もきれいに

なる」と訴える。四月からは、高齢者の支援活動に取り組むNPO法人「ライフサポートそよ風幡豆支部」も支援する。EM培養液の製造助成のほか、介護支援や健康セミナーなどの活動をしながらEM菌の風呂への使用をPRしてもらおうという。

## EM菌で用水路の水質浄化

山崎代表は、同町西幡豆で弁当と酒を扱う店を経営。二十代に知人からEM菌を紹介され、「世の中を变ちようとよかった」。一以 援者の一人である力になるかも」と興味を二三百円のEM菌一次活性液を「魚協などに持った。西尾市内から購入し、発酵培 も呼び掛けて

仕事の傍ら、開発した琉球 養って百匹にする。〇四年ま 広げていききた大の比呂照夫教授の講演を聴 での三年間は、夏の二方月で い」と意欲的いたり、実際に活動している この培養液を二、三斗流し だ。

人を訪ねたりして独学で勉強 してきた。 今後の用水路に直接流す 二〇〇二年に、EM菌で三 特の臭いは消え、効果は表れ 活動と並行 河湾周辺の浄化活動を続け たが、培養液の量が少なく、 し、下水道が る市民グループ「三河湾浄化 魚が下流に増えてへどろが劇 普及していな 市民塾」(事務局・同県西 的に減るといふ現象までには い地域の住民 尾市)のメンバーに入った。 至らなかつた。 にEM菌を風

とぶのような用水路から独 路に直接流す 二〇〇二年に、EM菌で三 特の臭いは消え、効果は表れ 活動と並行 河湾周辺の浄化活動を続け たが、培養液の量が少なく、 し、下水道が る市民グループ「三河湾浄化 魚が下流に増えてへどろが劇 普及していな 市民塾」(事務局・同県西 的に減るといふ現象までには い地域の住民 尾市)のメンバーに入った。 至らなかつた。 にEM菌を風



EM菌の発酵培養液を流す幡豆町EMエコクラブのメンバーら=愛知県幡豆町鳥羽で



学校から

人・自然・くらし